第２回　新たな文化施設の整備に関する有識者会議

日時：令和６年 10 月 25 日（金）　10：00～12：00

場所：市役所本庁舎７階委員会室

参加者：

有識者：五島朋子会長、倉持裕彌副会長、河合真由子委員、木谷清人委員、
田邉徹委員、齊藤頼陽委員、湯淺いづみ委員、大倉さゆり委員、川﨑富美委員

鳥取市：

企画推進部　塩谷範夫部長、河井経営統括監

文化交流課：中村和範課長、城市索課長補佐

政策企画課：上田貴洋課長

教育委員会生涯学習・スポーツ課：須﨑ひとみ課長、平田政志課長補佐、西垣宏史係長

まちなか未来創造課：河毛孝斗主幹

PwC：片山、吉田、鈴木（オンライン）、藤井

【議事要旨】

１．開会

２．議題

（1）第１回有識者会議を踏まえた対応

※資料１について、事務局より説明

（2）事務局からの報告

※資料 2-1 から 2-7 について、事務局より説明

【会長】各委員から、既存の活動状況やデータに関する質問・確認事項・要望はあるか。資料 2-2 の後半部分に記載されている各施設について、開館年を追加してほしい。

【委員】他都市の事例として、高槻城公演芸術文化劇場には小さい部屋が沢山あり、様々な人が利用していた。会議室や、コンパクトで小さい部屋もあり、多種なニーズに対応することを目指しているのではないか。子どもがバレエをする様子を親や先生が見ているような小さい部屋もあり、コンパクトな部屋が沢山ある施設も使い勝手が良いと考えている。施設内にはカフェもあり、カフェの利用のためだけに施設に来ている人もいて、人が集うという意味では良い雰囲気を出していると感じた。

【会長】文化センターの地下の練習室は利用状況が高い一方で、地下にあるため活動が見えにくい。常に人が来て何か活動に使えるような空間が複数あり、それが外に開いているというようなのは、今後の賑わい・交流づくりという意味では可能性としてある。

【委員】全国公立文化施設協会の 30 万人未満の都市のホール系の利用状況は平均 48.6%（令和 4 年）となっている。市民会館ホール、文化ホールの通年平均は全国平均よりもより少し低いが、土日の稼働率は高くなっているため、仮に市民会館と文化ホールを 1 つのホールにした場合、土日の活動場所が足りなくなるのではないかと懸念している。

【委員】施設管理者の立場から見て、土日・祝日や発表会が集中する月には抽選で外れて施設を利用できなかった団体や個人がいる。時期の変更や別の会場での開催ができれば良いが、統廃合という話が出てくると規模・性能的に使える施設が市内になくなってしまう可能性がある。文化センター練習室については、建物の構造上、ホールの裏方と練習室の入り口が同じため、ホールの利用がある際に練習室を一般開放して良いのかという点が貸し出し側の懸念材料としてある。また、ホール利用者で駐車場が埋まり、練習室利用者の車を停める場所がないという現状があり、どうしても利用調整をしなければならない。施設をまとめるということであれば、こういった点についても検討していく必要がある。

【会長】先程委員より、全国公立文化施設協会の平均との比較があったが、地方都市にある中小規模のホールとしては、稼働率 40%台というのはあまり高くないという見方となる。平日の利用が少ないのは活動の形態による部分もあるが、平日の稼働率を上げるために平日の利用料金を下げる等の工夫している自治体もあり、このような工夫は鳥取市でも必要になってくる。統廃合の話が上がっているが、今後の方針について現時点での市の考えを伺えるか。

【事務局】新たな施設ができるのは少なくとも 10 年後となる想定。それまでの間に既存施設がな

くなると市民の文化芸術活動の衰退に繋がると懸念しており、新たな施設が完成するまでは市民会館・文化センター・文化ホールを使用していく方向で検討を行っている。

【会長】基本構想が 3 月末に策定されるまでに、既存施設との兼ね合いについても一定の方向性を見出していき、市民会館・文化センター・文化ホール等の施設がゼロになる期間はないような形で検討する姿勢だと理解した。その他、活動状況等のデータについて、要望や質問はあるか。

【委員】現在の検討は、ホールや舞台中心の資料となっている。展示施設の利用について、県立美術館のギャラリーを使用する話が出ているが、備品や展示施設が使いづらく一般市民が利用できるのか懸念を抱いている。使い勝手や大きさに加え、展示についてのアドバイス・手伝いの機能を含んだギャラリーが必要だと考えている。

【会長】市民が自由に、積極的に使いこなせるような展示機能を持った施設があるか事例を確認して欲しい。

【事務局】承知した。

【副会長】先程話に上がった、施設利用の抽選で外れた人が、代わりにどの施設を利用しているかも確認できるようであれば知りたい。

【会長】代わりにどの施設を利用したかを把握するのは難しいかもしれないが、文化団体等の活動している方に聞けば分かるかもしれない。

（3）検討の方向性と基本構想目次（案）等について

※資料 3-1 について、事務局より説明

【会長】（p.2）施設規模・立地について、3 月末にまとめるときには事務局から一定の方向性が示されることが必要になる、それがないと基本構想自体がまとまらないと考えている。また、運営組織については、既存の振興会やどういった専門家が必要かの議論が必要。

【委員】他都市の事例について、ホールは多いが展示系の施設が少ないためイメージしにくい。次の委員会までに、展示系の他都市の事例を提示いただきたい。また、施設整備に至るまでの検討の流れの事例があれば提示いただきたい。

【会長】次回の委員会が来年のため、ヒアリング等で得られた情報や参考事例は都度示してほし

い。

※資料 3-2 について、事務局より説明

【会長】現在の検討は時間軸が抜けていると考える。文化施設が担う役割は、すぐに実現できるわけではないため、今ある状態からの段階が分かる時間軸が必要。資料に記載されている自己形成・自己表現・自己実現もあるが、そこを通して地域社会に関わっていくことや、孤独・少子化（子育て世代）・多様性等の社会的課題について考える・広げるような、外側へ向けた視点も必要だと考えている。

【委員】p.9 のマトリックスについて、施設の稼働・利用・使い方を比べてみると、プロ・セミプロ・アマチュア・初心者のどの部分を重要視するかが大事。県の施設はどちらかというとプロ・セミプロの使用が多いことや、市民の交流づくりや活性化という意味ではアマチュア・初心者に重心を置くべきだと考えている。

【委員】全てを新しい施設が抱え込む必要はないが、街中の民間のギャラリーを使いやすくするように誘導する拠点や、一般市民とデザイナー・クリエイターのマッチングもできるような拠点等、街に人が流れていくような施設ができると活性化に繋がると考えている。10/27（日）にとりぎん文化会館で行われる「鳥取駅周辺リ・デザイン市民フォーラム」は街づくりについて活動している方々と連携がとられている。民間の街を盛り上げようとしている人とつながって、全体が良い街となると良い。

【会長】一つの拠点として、そこから人・事業・プログラム等が外にしみ出していくような施設を超えたネットワークはいままでなかったため、新しい文化施設をそういった場所にできると良いと考えている。市としては、まちづくりを担当している課と連携しているか。

【事務局】まちなか未来創造課と連携しながら進めている。

【委員】県民ふれあい会館の小ホールだけ極端に稼働率が少ない。抽選で外れた際の代替として使われる可能性もあるが、何故稼働率が低いのか。

【委員】生涯学習センターという位置づけの施設で、良いホールだが音響反射板がなく、整備当初は講演会等を行うことを念頭に作られたのだと思われる。また、立地条件は良いが駐車場が足りていない（500 台は停められない）ということがある。

【会長】先程委員が挙げた理由に加え、演劇や音楽など舞台上で何かするには奥行が狭く、講演会には使われるが芸術活動には使いづらい。

【委員】梨花ホールはオーケストラ等を鑑賞するには良い施設だと思うが、市民が普通に借りるという面では使いづらい。市民が借りやすく、プロも高品質の音楽を届けられるという面では、300-500 規模の音響性能の整ったホールが適していると考えている。また、防音性の整った練習室があればもっと市民が利用しやすくなる。もし複合施設になるのであれば、ホール以外に 100-200 規模のリハーサル室があれば発表等にも使える。

【会長】スペックの良い小さな練習室や部屋が複数あれば、練習・ワークショップ・アウトリーチにも使える。

【副会長】地域の賑わいも課題として位置付けられるなかで、それに対処するのは施設が持つハード機能なのか、ソフトも含めた話なのかが気になる。また、プロモーターヒアリングの結果には、地方都市の難しさが書かれていることもあり、鳥取の地域感・規模感・活動レベルに合ったマネジメントが必要となってくる。ソフト面も構想に含まれるのであれば、そういった議論もあっても良いのではと思った。

【会長】どういったプログラムでどう社会に関わっていくかということや、専門性・仕組みが必要になってくる。

【委員】先程委員から、県立美術館のギャラリーは一般の人には使いづらいという話があったが、使いづらいというのはどういうことか。

【委員】天井が高く壁に穴をあけられないため、作品だけ持ち込んでも何もできない状態。予算を使い作りこまないと魅力に乏しい展示になってしまう現状があるため、誰でも一定のレベルを確保できる施設にできると良い。

【委員】コンパクトさが大事だと思っており、大きさがコンパクトなだけでなく、参加する障壁もコンパクト（小さく）になっていくと良い。市民が展示等を開催したいと思ったときにどうしたらよいか分からないという部分を解決していく必要がある。

【会長】コンパクト、あるいはハンディーとも言える。施設やスペックにも要求されるかもしれないが、仕組みや人の部分も関わっていき、市民の持っているクリエイティビティを発芽させていくことが求められると考えている。

【委員】自身は映画の自主上映活動を年に 4-5 回（ほとんど）文化ホールで行っている。今までで一番多くて 500-600 人入ることがあったが、駐車場が足りないため諦めて帰る人がいた。鳥取は車移動が多いため、駐車場問題を解決できると良い。利用者は多くて 500-600 人のため、上映会等に関しては 500-600 人規模の施設が使いやすい。また、文化団体協議会等に入っていれば半額で使えるような施設が増えると良いと考えている。

【会長】鳥取は車移動が多いという話が上がるが、鳥取市として、駐車場不足についてなにか施策は行っているか。例えば鳥の劇場では車を運転できない人向けにバスを出しているが、仕組みレベルでの施策等はあるか。

【副会長】中心市街地活性化基本計画のとりまとめにおいて駐車場問題が出ていたが、市の事務局は民間の有料駐車場も含めると数としては足りているという見解である。不足しているのは、施設から近く、かつ、無料で停められる駐車場が不足しているというのが実態。しかし、現実問題として無料の駐車場を沢山整備できるかというと、キャパシティの問題や民業圧迫の問題もあるため難しいというのが中心市街地活性化の議論としてあった。

【会長】主催者側が一部駐車場代を負担する等、意識を変えられるような策がないと実態は変わらない。

【事務局】施設だけの問題ではなく、仕組みやソフト面とセットで初めて活かされていく。コンパクトにするという点について、コンセプトの中でも、「誰でも」というワードが繰り返し出てきており、今回の考え方のポイントになると思っている。ハード面での敷居の下げ方、ソフト面での敷居の下げ方についてもっと検討していく必要がある。

【会長】市の方からのビジョンや方向性も次回には示していただきたい。

※第 3 回委員会までの依頼事項

【委員】仙台のメディアテークは建物が独特で、通路なのか展示なのかが曖昧になっていて、通過するだけで何かやっているのが分かる。また、デザイナーが副業として受付をしているなどと、クリエイターの取り入れ方の参考にもなる。茅野市の駅前に図書館と文化施設が一緒になっている施設があり、人が集まる図書館と文化施設は親和性が高いと考えている。

【会長】メディアテークにも図書館がある。仕組み、人、拠点の話が出ているが、クリエイターやアー

ティストが運営に参加し雇用されつつ拠点が広がっていくような事例が他にあれば参考になる。

【副会長】仙台のようなやり方に至るまでどのような道をたどったのかが気になる。専門性が入らないとユニークな建物にならないと思うが、専門性をどこで取り込むのか、どういうレベル感でやるのか等建物を作るどの段階で入れたらできるのか。他の事例でユニークな建物や注目すべきコンセプトがあった時、それがどうやって成り立っているのかが分かればやり方の議論もできると思うが、その議論はここでするべきか。

【会長】ここで議論しても良いと考えている。作るまで時間があるため、何かしらの仕組みを作っていくプロセスがあっても良い。

【事務局】設計者だけが考える施設ではなく、実際に使う人が設計段階から関わっている事例も増えてきており、そうした視点も踏まえて整理する。

（5）今後の予定

※資料 4-1 から 4-2 について、事務局より説明

【事務局】第 3 回委員会は 1/15（水）10:00 から（市役所横の）市民交流センター2 階の多目的室 1 で実施予定。第 3 回委員会前に個別に訪問し説明や意見等を伺いたく、別途日程調整を進める 。

【委員】内容的に説明があった方が良ければ訪問はありがたいが、情報提供だけであればメールでスピーディーに欲しい。

【事務局】情報提供だけであればメールで共有する。

【委員】街中で人が集う施設である長野の犀の角や信州アーツカウンシルも事例として追加していただきたい。

以上